

第22号の2様式 記載要領

- 1 この明細書は、2以上の市町村に事務所若しくは事業所（以下「事務所等」といいます。）を有する法人が、主たる事務所等所在地の市町村長に第20号様式又は第20号の2様式の申告書を提出する場合に、その申告書に添付して1通を提出してください。
- 2 法人課税信託の受託者が当該法人課税信託について、第20号様式又は第20号の2様式の申告書に添付する場合には、「法人名」の欄には法人課税信託の名称を併記してください。
- 3 「法人税法の規定によって計算した法人税額①」欄は、第20号様式の申告書に添付する場合は、次に掲げる法人の区分ごとに、それぞれに定める法人税の申告書の欄の金額を記載してください。なお、連結法人及び連結法人であった法人は、記載しないでください。
 - (1) 別表1(1)を提出する法人 別表1(1)10の欄の金額（ただし、別表1(1)の10の欄の上段に記載された金額（使途秘匿金の支出の額の40%相当額）がある場合には、当該金額を加算した合計額を記載してください。以下(2)及び(3)においても同じです。）
 - (2) 別表1(2)を提出する法人 別表1(2)の8の欄の金額
 - (3) 別表1(3)を提出する法人 別表1(3)の8の欄の金額なお、()内には、使途秘匿金の支出の額の40%相当額（別表1(1)の10の欄の上段に外書として記載された金額、別表1(2)の8の欄の上段に外書として記載された金額又は別表1(3)の8の欄の上段に外書として記載された金額）、リース特別控除取戻税額（別表1(1)の5の欄、別表1(2)の5の欄又は別表1(3)の5の欄の金額）及び土地譲渡利益金額に対する法人税額（別表1(1)の7の欄、別表1(2)の7の欄又は別表1(3)の7の欄の金額）の合計額を記載してください。
- 4 「試験研究費の額に係る法人税額の特別控除額②」欄は、第20号様式の申告書に添付する場合は、下記の金額はそれぞれに定める法人税の申告書の欄の金額を記載してください。なお、連結法人及び連結法人であった法人は、記載しないでください。
 - (1) 租税特別措置法第42条の4第1項（試験研究費の総額に係る税額控除）の規定に係る金額 法人税の明細書（別表6(6)）の27の欄の金額
 - (2) 租税特別措置法第42条の4第2項（中小企業者等の試験研究費に係る税額控除）の規定に係る金額は記載しないでください。
 - (3) 租税特別措置法第42条の4第3項（特別試験研究費に係る税額控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(8)）の10の欄の金額
 - (4) 租税特別措置法第42条の4第4項（試験研究費の増加額等に係る法人税額の特別控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(9)）の22の欄の金額
- 5 「国家戦略特別区域において機械等を取得した場合等の法人税額の特別控除額③」欄は、第20号様式の申告書に添付する場合は、下記の金額はそれぞれに定める法人税の申告書の欄の金額を記載してください。なお、連結法人及び連結法人であった法人は、記載しないでください。
 - (1) 租税特別措置法第42条の10第2項（国家戦略特別区域において機械等を取得した場合の法人税額の特別控除）及び第3項（繰越税額控除限度超過額に係る法人税額の特別控除）の規定に係る金額 法人税の明細書（別表6(15)）の25の欄の金額
 - (2) 租税特別措置法第42条の11第2項（国際戦略総合特別区域において機械等を取得した場合の法人税額の特別控除）及び第3項（繰越税額控除限度超過額に係る法人税額の特別控除）の規定に係る金額 法人税の明細書（別表6(16)）の25の欄の金額
 - (3) 租税特別措置法第42条の12の第2項（地方活力向上地域において特定建築物等を取得した場合の法人税額の特別控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(17)）の24の欄の金額
 - (4) 租税特別措置法第42条の12の第1項、第2項及び第3項（雇用者の数が増加した場合の法人税額の特別控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(18)）の36の欄の金額
 - (5) 租税特別措置法第42条の12の4第1項（雇用者給与等支給額が増加した場合の法人税額の特別控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(21)）の13の欄の金額
 - (6) 租税特別措置法第42条の12の5第7項及び第8項（生産性向上設備等を取得した場合の法人税額の特別控除）の規定に係る金額（中小企業者等を除きます。） 法人税の明細書（別表6(22)）の21の欄の金額
- 6 「還付法人税額等の控除額④」欄は、第20号様式の申告書に添付する場合には、第20号様式別表2の3の④の計欄の金額を記載してください。なお、連結法人及び連結法人であった法人は、記載しないでください。
- 7 「退職年金等積立金に係る法人税額⑤」欄は、第20号様式又は第20号の2様式の申告書に添付する場合には、法人税の申告書（別表19）の11の欄の金額を記載してください。なお、連結法人及び連結法人であった法人は、記載しないでください。
- 8 「差引計⑥」欄は、次に掲げる法人の区分ごとに、それぞれに定める金額を記載してください。この場合において、1,000円未満の端数があるとき、又はその金額が1,000円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てた金額を記載します。
 - (1) 第20号様式の申告書を提出する法人
 - ア 連結法人及び連結法人であった法人以外の法人 ①+②+③-④+⑤の金額
 - イ 連結法人及び連結法人であった法人 第20号様式別表1の⑧の欄の金額
 - (2) 第20号の2様式の申告書を提出する法人 ⑤の欄の金額
- 9 「事務所又は事業所」欄は、同一市町村内に所在する事務所等ごとに記載してください。
- 10 「分割基準及び分割課税標準額」欄は、次のように記載してください。
 - (1) 「従業者数」の欄は、同一市町村内に所在する事務所等ごとに記載し、同一市町村ごとに小計を付して記載してください。この場合における従業者数とは、法人税額の課税標準の算定期間又は連結法人税額の課税標準の算定期間（以下「算定期間」といいます。）末日現在における従業者の数をいいます。ただし、次のアからウまでに掲げる事務所等については、それぞれアからウに定める従業者の数（その数に1人に満たない端数を生じたときは、これを1人とします。）をいいます。
 - ア 算定期間の中で新設された事務所等
$$\text{算定期間の末日現在の従業者数} \times \frac{\text{新設された日から算定期間の末日までの月数}}{\text{算定期間の月数}}$$
 - イ 算定期間の中で廃止された事務所等
$$\text{廃止された月の前月末日現在の従業者数} \times \frac{\text{廃止された日までの月数}}{\text{算定期間の月数}}$$
 - ウ 算定期間の各月の末日現在の従業者数のうち最も多い数が最も少ない数の2倍を超える事務所等
$$\frac{\text{算定期間の各月の末日現在の従業者数を合計した数}}{\text{算定期間の月数}}$$なお、月数の計算は、暦に従って計算し、1月に満たない端数を生じたときは、切り上げて記載してください。
 - (2) 「分割課税標準額」の欄は、次のように記載してください。
 - ア ⑥の欄の金額を「合計」の欄の従業者の数で除して1人当たりの分割課税標準額を算出し、当該1人当たりの分割課税標準額に、「従業者数」の欄の市町村ごとの小計の数値を乗じて得た額を記載してください。なお、従業者1人当たりの分割課税標準額を算出する場合において、当該除して得た数値に小数点以下の数値があるときは、当該小数点以下の数値のうち当該従業者数の総数のけた数に1を加えた数に相当する数の位以下の部分の数値を切り捨てた数値を記載してください。（例えば、当該従業者数の総数のけた数が3けたである場合には、小数点第4位以下の数値を切り捨てた数値を記載してください。）
 - イ この金額に1,000円未満の端数があるとき、又はその全額が1,000円未満であるときは、その端数金額又はその全額を切り捨てた金額を記載してください。